

「教育実習報告」

[市立 O 中学校 社会] 氏名：M.T

私は約 3 週間、母校の中学校に実習生として携わらせて頂いた訳ですが、今思えば、もっと丁寧な教材研究を実習前の期間に行えば、より良く実習が出来たであろうと思います。実習の打合わせが実習開始の 10 日程前に行われ、その時に担当教員の方と授業進行などの打合わせをさせて頂いたのですが、ここでもっと詳細な部分まで聞いておけばよかったです。打合わせ内容としては、社会科に関する種々の事、使用教科書や現在進んでいる範囲、プリントと板書を用いた授業形態であるということと、私が授業を行うであろう範囲と、おおよそ実習中に進んでほしい範囲などを話し合いました。

また、道徳の授業を最低一回は実施する事についても話し合いました。そして、担当クラスを含む、社会科実施クラス（1 年 1 組から 4 組までのクラス）の各クラスにおける大体の雰囲気等についても話し合いました。しかし、より具体的なレベルで聞いておくべき事が、今思えば色々ありました。前回の中間テストではどのような問題を出したのか、副教材は用いているのか、そうであればどのように用いているのか、授業を行う際に、読んでおくと役立つ様な参考図書等はあるのか、担当教員は実習時にどういった授業を展開していたのか、それに対する反省点はあったのか、生徒と触れ合う際に注意すべき事はあるか、どういった指導観に基づいて生徒と接し、そしてどのような生徒になってほしいのか... 等々。担当教員の方も時間に限りがあるのであまり長々と話すことは出来ませんが、それでも上記のような質問も行えば良かったなと思います。また、打合わせ後から実習までの 10 日間あまりの時間や、それ以前の時間においても、もっと教材研究を行い、自分の中で模擬授業を具体的に頭の中だけでも良いので行えば良かったなと思います。そして 3 週間の実習では様々なことを学ばせて頂きました。

中学 1 年生のしかも前半期というのは、どちらかという小学生に近い生徒像であり、まだまだ幼い部分が多いということや、プリントを一枚貼らせるのは、生徒一人一人に合わせては、大変時間が掛かるということ。私自身に関して言えば、プリントを手際よく配ることの困難さや、プリントを用意しきちんと管理する事や、前回どこまで進んだのかを把握しておく事の重要性といった細かい所もまだまだ未熟であると感じました。何より、授業に関しても、生徒指導に関しても、自分の中で一番伝えたい事がまとまっておらず、それがあらゆる面で露呈してしまった実習でもありました。「Teaching」ではなく「Coaching」を目指していたはずですが、授業においては全くもって一方向的な内容となってしまうのです。他の実習生の方々と比較して、生徒と触れ合う機会はあったのですが、そんな中、生徒との距離感も大変難しいと感じました。私は教員と生徒との間には、信頼関係が必要不可欠であると思っています。信頼関係というのはコミュニケーションを多かれ少なかれ必要とします。しかし、生徒と先生の関係は友達と同じ距離感ではいけません。友達レベルの距離感であれば、教師の好き嫌いでコミュニケーションを行うことを容認してしまうと思うからです。しかしながら私は、言語コミュニケーションが苦手な私にちょっかいをかけてきた生徒に対して、叱り方が分かりませんでした。その子にとって何が最善なのかという問いに対する答えを持っていませんでした。果たしてそこで、「コラ！」と怒鳴ることが正しい叱り方なのか、それは「Teaching」ではなく「Coaching」なのか、正直な所、今でもはっきりとは分かりません。ただ一つ言えることは、あの場において私を小突いてくるその子を、その子の為すがままにジャレあった私の言動は正しいものではありませんでした。放置せず、きち

んと対話するなり何なりと、何らかのアクションは起すべきでした。

以上の内容を記述しながら「私の教育実習」を振り返る度に何とも言い表し難い「不甲斐なさ」の様なもの、未だに押し寄せてきます。教員に対する熱意は変わりません。増した訳でもなく、減った訳でもありません。ただ、自分が教員になれるかという不安が以前よりも増えただけです。それでも、いつか生徒の役に立つ様な素晴らしい先生になればいいなと思います。